

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	診療画像技術学実習2 (Practicum of Medical Imaging Technology 2)		
ナンバリングコード	S30221	大分類 / 難易度 科目分野	保健医療学科 / 応用レベル / 診療放射線学
単位数	1	配当学年 / 開講期	3 年 / 前期
必修・選択区分	コース必修: 診療放射線学コース 選択: 臨床検査学コース、臨床医工学コース ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	S004201	クラス名	-
担当教員名	衛藤 路弘、村中 博幸、野口 敦司、青山 良介、原田 義富、佐野 成雄、東 敏也、北村 茂三		
履修上の注意、 履修条件	グループによる実習形式をとる。 実習後は、1週間以内に実習レポートを提出すること。 遅刻・欠席をしないこと。(欠席による補講不可) 身だしなみ(髪型、髪色、装飾品など)を整え望むこと。 診療放射線学コースの学生は必ず履修すること。		
教科書	実習項目に適した教科書(参考書)を持参すること。		
参考文献及び指定図書	放射線技術学シリーズ X線撮影技術学(改訂3版)(小田紋弘、土井司、オーム社、2020) 基礎からわかる! 実践できる! 造影検査学(神島保他、メジカルビュー社、2022) 若葉マークの画像解剖学(改訂第3版)(磯部智範編、メジカルビュー社、2019)		
関連科目	放射線撮影学、診療画像検査学、診療画像機器学、診療画像技術学実習1		

○基本情報		
授業の目的	医療現場での基本的な撮影方法と患者接遇を修得する。 1.ファントムなどを用いて撮影方法やポジショニング手技を身に付ける。 2.患者接遇の基礎技術を身に付ける。 3.撮影した画像の評価方法を身に付ける。	
授業の概要	診療画像技術学分野の学修で身に付けた知識と診療画像技術学実習1で身に付けた基礎技術を活用し、診療参加型の臨床実習に向け、診療画像検査技術部門の検査手技を中心に臨床に求められる知識と技術について理解すると共に実践力を身に付ける。また、検査を実施するうえで他職種との連携について理解し、より安全に検査を行う手法を学ぶ。さらに、本科目において、臨床実習(診療参加型)をより円滑に学修するための応用力を身に付ける。 教員の主な担当部分は次のとおりである。 (① 村中博幸) 下部消化管検査、血管造影検査、(⑥ 東敏也、⑪ 衛藤路弘) 脊椎・脊髄領域のMRI検査、腹部・骨盤領域のMRI検査、(⑤ 野口敦司、⑩ 青山良介) 頭部領域のCT検査、脊椎・脊髄領域のCT検査、ポータブル撮影検査、乳房X線撮影検査、(⑫ 原田義富、⑬ 北村茂三) 頭部領域のX線撮影、胸部領域のX線撮影、下肢領域のX線撮影、脊椎・脊髄領域のX線撮影、(⑮ 佐野成雄)	
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「実験・実習形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	「オムニバス方式」
	(3) アクティブ・ラーニング	「実習、フィールドワーク」
地域志向科目	該当しない	
実務経験のある教員による授業科目	臨床経験(病院での実務経験)のある診療放射線技師が担当する。	

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【ディプロマ・ポリシー1】	生命に対する尊厳と人権を尊重し、人間力の基盤である他者を思いやり、相手の立場に立った共感力や豊かな人間性、主体的にチームの中で協調して行動できるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身に付けている。		10点	10点
【ディプロマ・ポリシー2】	幅広い教養と倫理観を基盤として、診療放射線学、臨床検査学、臨床医工学のいずれかの専門分野に関する医療技術の知識と技能を修得できている。		20点	20点
【ディプロマ・ポリシー3】	医療の実態を理解したうえで、チーム医療の実践や多職種間の連携に必要な課題解決力を身に付けている。		20点	20点
【ディプロマ・ポリシー4】				

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)	
実習項目ごとに提出するレポートによる評価と実技試験による評価を行う。 レポートの提出は、実験後1週間以内とし返却時にフィードバックを行う。 実技試験におけるフィードバックは試験終了後に担当試験官によるフィードバックを行う。 臨床実習(診療参加型)に向けた準備の観点より、実技試験に身だしなみ等の評価を加える。 また、遅刻や無断欠席は減点対象となるため注意すること。	

○その他

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画		科 目 名 担当教員	診療画像技術学実習2 (Practicum of Medical Imaging Techno 衛藤 路弘、村中 博幸、野口 敦司、青山 良介、原田 義富、佐野 成雄、東 敏也、	授業コード S004201
学修内容				
1. ガイダンス				
学内の実習を実施するにあたり、必要な心構えや実習計画について説明を行う。				
予習	診療放射線技師として適切な身だしなみと態度について予習する。			約2時間
復習	実習内容をノートにまとめる。			約4時間
2. 単純X線撮影(腹部)				
腹部領域の撮影手技におけるポジショニング法と撮影条件について学修する。また、得られた画像の解剖学的知識や画像評価技術を修得する(腹部X線撮影:臥位正面 立位正面 側臥位正面、骨盤撮影)。				
予習	腹部領域のX線撮影手技と画像解剖について予習する。			約2時間
復習	実習内容をノートにまとめる。			約4時間
3. 単純X線撮影(下肢)				
下肢の撮影手技におけるポジショニング法と撮影条件について学修する。また、得られた画像の解剖学的知識や画像評価技術を修得する(大腿骨:正面、膝関節:正面 側面、足関節:正面 側面)。				
予習	下肢のX線撮影手技と画像解剖について予習する。			約2時間
復習	実習内容をノートにまとめる。			約4時間
4. X線CT撮影(頭頸部)				
X線CTにおける頭部領域の撮影手技におけるポジショニング法とスキャン計画について学修する。また、得られた画像の解剖学的知識や画像評価技術を修得する(頭部CT、眼窩CT、聴器CT、副鼻腔CT)。				
予習	X線CTにおける頭部領域の撮影手技と画像解剖について予習する。			約2時間
復習	実習内容をノートにまとめる。			約4時間
5. MRI撮影(頭部)				
MRIにおける脊椎・脊髄領域の撮影手技におけるポジショニング法とスキャン計画について学修する。また、得られた画像の解剖学的知識や画像評価技術を修得する(頸椎MRI、腰椎MRA)。				
予習	MRIにおける脊椎・脊髄領域の撮影手技と画像解剖について予習する。			約2時間
復習	実習内容をノートにまとめる。			約4時間
6. 超音波撮影(表在)				
超音波における表在臓器の撮影手技における撮影体位と走査方法について学修する。また、得られた画像の解剖学的知識や画像評価技術を修得する(対象臓器:甲状腺、頸動脈)。				
予習	超音波における表在臓器の撮影手技と画像解剖について予習する。			約2時間
復習	実習内容をノートにまとめる。			約4時間
7. 造影検査(下部消化管)				
下部消化管造影の撮影手技における撮影方法と撮影体位について学修する。また、得られた画像の解剖学的知識や画像評価技術を修得する(対象臓器:十二指腸造影、小腸造影、大腸二重造影)。				
予習	下部消化管造影の撮影手技と画像解剖について予習する。			約2時間
復習	実習内容をノートにまとめる。			約4時間
8. 乳房X線撮影検査				
乳房X線撮影検査における検査手技について学修する。また、得られた画像の解剖学的知識や画像評価技術を修得する(使用装置:マンモグラフィ)。				
予習	乳房X線撮影検査の撮影方法について予習する。			約2時間
復習	実習内容をノートにまとめる。			約4時間

○授業計画	科目名	診療画像技術学実習2 (Practicum of Medical Imaging Techno	授業コード	S004201
	担当教員	衛藤 路弘、村中 博幸、野口 敦司、青山 良介、原田 義富、佐野 成雄、東 敏也、		
学修内容				
9. 単純X線撮影(脊椎・脊髄)				
脊椎・脊髄領域のX線撮影手技におけるポジショニング法と撮影条件について学修する。また、得られた画像の解剖学的知識や画像評価技術を修得する(頸椎:正面 側面 斜位 前後屈位 開口位、腰椎:正面 側面 斜位)。				
予習	脊椎・脊髄領域のX線撮影手技と画像解剖について予習する。			約2時間
復習	実習内容をノートにまとめる。			約4時間
10. 単純X線撮影(頭部)				
頭部の撮影手技におけるポジショニング法と撮影条件について学修する。また、得られた画像の解剖学的知識や画像評価技術を修得する(レーゼ法、シュラー法、ステンバース法、マイヤー法)。				
予習	頭部のX線撮影手技と画像解剖について予習する。			約2時間
復習	実習内容をノートにまとめる。			約4時間
11. X線CT撮影(椎体)				
X線CTにおける脊椎・脊髄領域の撮影手技におけるポジショニング法とスキャン計画について学修する。また、得られた画像の解剖学的知識や画像評価技術を修得する(頸椎CT、胸椎CT、腰椎CT)。				
予習	X線CTにおける脊椎・脊髄領域の撮影手技と画像解剖について予習する。			約2時間
復習	実習内容をノートにまとめる。			約4時間
12. MRI撮影(腹部)				
MRIにおける腹部・骨盤領域の撮影手技におけるポジショニング法とスキャン計画について学修する。また、得られた画像の解剖学的知識や画像評価技術を修得する(腹部MRI、骨盤MRI)。				
予習	MRIにおける腹部・骨盤領域の撮影手技と画像解剖について予習する。			約2時間
復習	実習内容をノートにまとめる。			約4時間
13. 超音波撮影(心臓)				
超音波における心臓領域の撮影手技における撮影体位と走査方法について学修する。また、得られた画像の解剖学的知識や画像評価技術を修得する。(Bモード法、Mモード法、Dモード法)。				
予習	超音波における心臓領域の撮影手技と画像解剖について予習する。			約2時間
復習	実習内容をノートにまとめる。			約4時間
14. 造影検査(血管)				
血管造影検査の撮影手技における撮影方法と撮影手技について学修する。また、得られた画像の解剖学的知識や画像評価技術を修得する。				
予習	血管造影検査の撮影手技と画像解剖について予習する。			約2時間
復習	実習内容をノートにまとめる。			約4時間
15. ポータブル撮影検査				
ポータブル撮影検査における検査手技について学修する。また、得られた画像の解剖学的知識や画像評価技術を修得する(胸部:臥位 座位、腹部:臥位)。				
予習	ポータブル撮影検査の撮影方法について予習する。			約2時間
復習	実習内容をノートにまとめる。			約4時間
16. 実技試験				
予習				
復習				